

2023(令和5)年度 事業報告

社会福祉法人 善興会

1968年、北九州市第一号の特別養護老人ホーム“善興園”を開設した当法人は、創立から55年が過ぎました。少子高齢化が進む中、2025年・2040年問題を目前に新たな福祉のあり方を模索しています。

このため2023(令和5)年度は、以下を重点的に取り組んだ一年でした。

1. 人材の確保と育成
2. デジタル化の促進
3. 55周年を機に成熟した法人としての組織づくり

具体的には、福岡、宮崎両県にまたがる善興会全施設の合同の入職式(辞令交付)を皮切りに、新たな管理職として副施設長が誕生しました。またキャリアアップのための資格取得に向けた支援制度を開設。職員が誇りを持って仕事に励めるようにハラスメントやメンタルヘルス対策を強化し、第三者機関の「労務トラスト」(本社東京)と提携、12月には職員が1カ所に集まって心理士によるハラスメント対策研修を実施しました。さらに法人を介さず zoom や電話などで直接相談できる体制を作りました。

DX(デジタルトランスフォーメーション)化を、積極的に取り組んでいこうと新たに第三善興園でも、福岡県の補助事業を活用し全館 Wi-Fi 工事を完了、新たな見守り機器を導入しました。法人全体が連携して取り組めるように「DX推進チーム」も発足させ、施設を超え職員同士が気軽に情報交換できるよう努めています。使いこなすまでにはもう少し時間も必要ですが、活用によりスタッフの負担軽減や、より充実したゲスト(入所者)のケアを目指して奮闘中です。

さらに教育機関と連携し、社会福祉士、ケアマネジャー、介護福祉士を目指す学生ら計13人の実習生を受け入れ、職員や実習生らの宿泊所の整備、老朽化に伴う施設リニューアルに向けた設計など、施設で暮らすゲストはもちろん、職員が快適に過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

地域のお役に立つため、紙面やホームページによる情報発信と共に北九州市の「まちかど介護相談室」の指定を受け、小学校との地域交流、周年事業として送迎車両の装飾を一新しイベントも開催するなど、「頼れる福祉」の発信にも努めました。

しかし結果として、2023年度の法人全体の収益は15億2645万円にとどまり（前年比-454万8千円）、当期活動増減差額も+1054万9千円でした。

多角的な取り組みで法人内の活性化などの成果はありましたが、法人施設全体の占床率は90.29%で前年度と比較すると-2.47ポイントとなり、人件費が膨らむ中で、長期的な展望での経営見直しが必要な時期を迎えています。

また中長期計画の策定については次年度継続となりましたが、地域のニーズをしっかりと捉え、笑顔が広がる福祉運営に向けて職員一同手を取り合い励んでいます。

1. 当法人の適切な運営と経営基盤の安定を図るため、理事会・評議員会を開催しました。

2023年5月24日 第1回 理事会 14:00~16:00

第1号議案 「2022年度 事業報告(案)」について

第2号議案 「2022年度 決算報告(案)」について

第3号議案 「2022年度 監事監査結果報告」について

第4号議案 「報酬等支給基準」について

第5号議案 「人事評価昇給対象者」について

第6号議案 「諸規程変更」について

報告事項 「理事監事の選任候補者の推薦」について

「補助金交付決定通知」について

「業務執行理事の職務執行状況について」

2023年6月10日 2022年度定時評議員会 13:00~15:00

第1号議案 「2022年度 事業報告(案)」について

第2号議案 「2022年度 決算報告(案)」について

第3号議案 「2022年度 監事監査結果報告」について

第4号議案 「報酬等支給基準」について

第5号議案 「諸規程変更」について

第6号議案 「理事及び監事の選任」について

報告事項 「2023年度事業計画及び予算」について

2023年6月10日 第2回理事会 16:00~17:00

第1号議案 「理事長及び業務執行理事の選定」について

2023年8月28日 第3回理事会 17:30~19:00

第1号議案 「善興園デイサービス事業計画(案)」について

2023年11月27日 第4回理事会 17:30~19:00

第1号議案 「合同会社労務トラスト顧問契約」について

第2号議案 「第三善興園リノベーション計画」について

第3号議案 「就業規則及び育児・介護休業規程変更」について

2024年3月28日 第5回理事会 14:00~16:00

第1号議案 2023年度 第1次補正予算(案)について

第2号議案 2024年度 事業計画(案)について

第3号議案 2024年度 収支予算書(案)について

第4号議案 「第三善興園一般指導監査・運営指導」について

第5号議案 「給与規程及び経理規程変更」について

2. 広報事業

機関紙やインターネットなどを活用し、社会福祉に関する理解と参加を促進する広報活動を行いました。

- ・介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ」
- ・八幡東区老連だより
- ・八幡東区社協だより
- ・各施設機関紙の発行
- ・北九州文学協会作品集

3. 監査

当法人定款、経理規程にしたがい、監査が行われました。

- ・2023年度 北九州市一般指導監査 第三善興園(2024/1/17)
- ・2023年度 社会福祉施設等指導監査 杉の湯荘(2023/10/6)
- ・2023年度 監事監査(2024/5/17)
- ・2023年度 税理士監査(本部 2024/4/15)(花の王善興園 2024/4/10)
(第三善興園 2024/4/9)(北郷荘 2024年6月予定)

2023(令和5)年度 事業報告

特別養護老人ホーム 花の王善興園
特別養護老人ホーム 第三善興園

1. 取り組み結果報告(拠点区分共通)

(1) 占床率について

2023年度の一般入所は、花の王善興園では92.8%(前年度比-0.5ポイント)でした。

第三善興園では、92.6%(前年度比-3.4ポイント)に留まりました。死亡や入院など状態悪化による退所が計40人(前年度比+11人)いたことが主な要因です。一方で短期入所生活介護(ショートステイ)の利用率は改善し、70.8%(前年度比+13.8ポイント)となりました。1日当たりでは3人増で、新型コロナ流行時のいわゆる“入所控え”が落ち着いたとみられます。

(2) 感染症対策について

新型コロナは5類感染症に移行されましたが、重症化が心配される高齢者を抱える施設として、手指衛生・マスク着用・換気といった基本的対策に加え、ワクチン接種、家族との面会を予約をお願いして分散実施、職員の健康管理を徹底するなど感染拡大防止に努めてきました。

しかしながら、花の王善興園、第三善興園ともにクラスターが発生し、感染症対策の難しさを痛感しました。

(3) 人材の確保について

両施設を合わせて11人と一定の採用はできました。一方で離職者も14人ありました。このため法人が設置した“ストレス解放戦線プロジェクト”を活用し、第三者相談窓口の臨床心理士ら専門家による退職面談を実施しました。また、ハラスメント防止研修にはベテラン職員の参加を図るなど働きやすい職場づくりに向け環境改善を図っています。

(4) 研修について

10月、九州老人福祉施設職員研究大会が福岡市で開催されたことから各施設長、副施設長、生活相談員ら6人が参加し科学的介護や

高品質な施設サービスなど8つの分科会に分かれ学びました。

この他の虐待防止や感染症対策といった外部研修は、オンラインでの受講が中心となりました。

また職員全体の施設内研修としては感染症対策のほか、身体拘束や虐待防止、リスクマネジメントとして誤嚥の予防など計 39 回実施しました。

(5) SDGsの取り組みについて

環境に配慮した運営を継続し、花の王善興園にも電気自動車を1台導入しました。

(6) 職員の健康管理

介護職員の腰痛症検診や、メンタルヘルス不調のリスク低減対策としてストレスチェックを継続しています。

2. 取り組み結果報告（拠点区分ごと）

(1) 花の王善興園

新型コロナについて、2024年2月末から4月初めまでコロナのクラスターが発生しました。発生直後にレッドゾーン隔離を実施しましたが、最終的には26人のゲストがコロナ陽性となりました。

福岡県ICT導入支援事業費補助金の活用で、以前から懸案事項となっていた全館 Wi-Fi 整備を終えることができました。これを機に iPad を増やし、送信区域も拡大したことで職員の導線も変わることから、サービスの向上と業務の効率化につなげていきます。

ショートステイの占床率については、50%（前年度比+8ポイント）と上がりましたが、さらなる新規登録者の獲得とリピーターの確保に努め、受け入れ強化が必要です。

(2) 第三善興園

新型コロナについては、8月に2フロアでクラスターが発生し、ゲスト39人が相次いで罹患しましたが、隔離やスタッフの移動制限などで乗り越えました。

また、かねてから検討していた介護ロボットの導入が実現しました。これは、転倒を繰り返すゲストの見守りとして家族から「カメラの導入」を要望されたことが弾みとなりました。県介護ロボット導入支援事業費補助金を活用し、年度末に、心拍・呼吸・体動・離着床・睡眠の状態を、ナースステーション

など離れた場所で見守れるICT機器“aams”の実用を開始しました。カメラを併せて設置することで居室のゲストの様子を確認することが可能となりました。これにより、ケアの質向上と作業効率化、ひいてはデジタルに馴染みのある“若手職員の働きがい”につながるものと期待しています。

ショートステイについては、定期的な利用者に加え、独居や、家族の入院・就労などで介護者不在となるような止むを得ない事情で長期の利用となる人も増加しました。ここ最近の傾向として、重度の認知症や不安神経症、あるいは他の精神的な疾患が考えられる利用者が多くなっており、対応する職員らの一層のスキルアップが求められています。

2023(令和5)年度 事業報告

善興園デイサービスセンター

取り組み結果報告

(1) アクティビティの開発・提供

新型コロナ蔓延防止をしっかりと行いながら、折り紙や塗り絵のほか、節分や七夕の飾りつけなど季節感を取り入れる行事を企画し、利用者同士が交流を図りやすい内容を計画しています。

利用者が楽しめるよう、リクエストに応えるなど工夫に努めました。外出行事は中止してきましたが、ドライブは毎月実施し、車窓の風景を見ながら語り合うことで気分転換を図っています。八幡に限らず戸畑・若松・中間・芦屋・遠賀方面へも足を延ばしました。

神原クリニック理学療法士によるリハビリは好評で、実施日の利用者ほぼ全員が参加出来ています。関節・筋力などをチェックし、必要なリハビリを実施することで参加意欲の向上につながっています。

理学療法士・職員間での情報交換も行っており、ケアの際など普段気を付けるべき注意点が理解でき、利用者へのサービス向上に役立てています。

(2) 職員の技術向上や研修会の実施

認知症の症状とケアについて、また感染症の予防など、事業所内研修を毎月実施して職員の知識向上に努めています。

新型コロナ対策として、利用者さんに感染が疑われる症状が出ている際には、迅速な対応を行い病院受診してもらえよう促しました。

(3) 新規利用者確保

登録者は12人と、新規の方を受け入れやすい状況が続いています。毎日の利用者の平均は5人程度と少ないことから、地域の居宅介護支援事業を訪ね、PRに努めています。

なお、現利用者の継続利用については良好であり、より満足感が得られるようスタッフ間でも声掛けしながらサポートに励んでいます。

2023(令和5)年度 事業報告

善興会ケアプランセンター・ゴクラク

より地域から信頼される居宅介護支援事業所として、4人のケアマネジャーが真摯な姿勢で生活相談に対応してきました。

利用者や家族の“自宅で生活を送る”という思いに応えるため、多くの困りごとを抱える相談者のニーズにも可能な限り応じ、地域のサービス事業者や施設と連携して介護サポートや生活支援を行いました。

取り組み結果報告

(1) 地域連携について

地域包括・統括支援センターが主催する事例検討会をはじめ、ケアマネジメント業務に関する研修会に参加し、各ケアマネジャーが研鑽に努めました。また、新たに発足した八幡東西ケアマネジャー連絡会や八幡西2多職種連携研修会などに参加することで、医師や理学療法士ら様々な職種との連携に繋げる事ができました。その結果、高齢者と障害者が共に利用する共生型の事業所といった新たな社会資源を探し利用者さんに紹介するなど、提案するケアプランの選択肢を増やしました。

また、事業所圏域の法人外居宅介護支援事業所・地域包括支援センター八幡西2と合同研修会を開催しました。7月にコムシティ3階で、参加者41人が集まり“息子からの経済的な虐待が疑われる事例”をテーマに検討しました。

(2) 事業所内での取り組みや実習生の受け入れについて

私たちは週1回、事業所内でケアマネ会議を行っています。

各ケアマネジャーから、新規の利用者さんや対応に迷うケースなどの事例報告を受けながら互いに情報共有し、対応方法について協議しました。

また実習生を積極的に受け入れ後進の指導を行っています。年間でケアマネジャー実習生2人、社会福祉士実習生2人、計4人を指導しました。国家試験を高得点で合格したとの報告を受け、指導者としても今後の励みになりました。

(3) 体制について

2023年度はケアマネジャー2人の採用(正職員1人・パート職員1人)を行いました。うち1人(正職)は2024年3月から花の王善興園へ異動となり、現在は正職員3人・パート職員1人の、計4人体制となっています。

2023 年度 事業報告

障害者支援施設 北郷荘
グループホーム 杉の湯荘
相談サポートセンター 北郷の里

1. 取り組み結果報告(拠点区分共通)

(1) 占床率について

2023 年度は 82.8%どまりとなり、前年度を 4.6 ポイント下回りました。医療機関や宮崎市内の基幹相談支援センターなどへの広報活動に努めましたが、新規の入所につながるケースが少なく、また入院するゲストも減らせなかったため、収益の改善には至りませんでした。

(2) 感染症対策について

新型コロナウイルス感染防止対策と利用者・職員の安全を最優先に、職員一丸となって取り組みましたが、北郷荘の 3 階フロアにおいて 2 月にクラスターが発生し、利用者 19 人、職員 6 人が罹患しました。

(3) 人材の確保について

学校訪問や各種面談・説明会、求人誌、WEB サイトなどによる広報活動に努めました。新卒者は介護福祉士と調理師、また中途採用の介護職員の計 5 人の入職となりましたが、一方でベテラン職員を含め計 6 人の退職があり、特に新入職員の定着に課題を残しました。

(4) 研修について

オンラインから徐々に対面型研修(集合型)が増え、職員の学びの場をつくるため私たちもできる限り参加に努めました。

- ① 喀痰吸引等研修については、介護福祉士 4 人が受講、北郷荘内で看護師の指導による実地研修を経て、喀痰吸引等の資格を取得しました。
- ② 北郷荘の魅力である“温泉”を安全で快適に活用するため、レジオネラ対策専門技術者・養成講座(熊本市)に初めて 3 人が参加、全員が認定資格を取得しました。
- ③ 2 月に開催された「令和 5 年度 第 50 回九州障害者支援施設研究大会(宮崎大会)」では、実行委員として参加、県内外から約 300 人が参加する盛大な研修会を皆で成功させました。

(5) 安全管理体制について

宮崎県ではこのところ、地震や台風による大雨や強風の影響が続いています。8月に、台風6号の襲来で洗濯場の窓ガラスが破損しましたがゲストが暮らすフロアの対策は予め行ったため、被害には至りませんでした。火災については、事業所全体での定期的な通報・消火・避難訓練を実施するとともに、消防設備業者による設備の取扱説明や消火器・屋内消火栓などの放射・放水訓練の指導を受けました。

(6) 飲酒運転の防止について

交通事故を今まで以上に厳格に防止するため、運転前と運転後の計2回、ドライバーに対してアルコールチェックを実施し、記録を行いました。今後も職員の安全意識を高め、運転スキルの向上に努めていきます。

2. 取り組み結果報告(拠点区分ごと)

(1) 障害者支援施設 北郷荘

身体・知的・精神の様々な障害のある利用者と家族からの相談のもと「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時支援」「計画相談」の各事業において支援に努めてきました。

また障害者雇用については、知的障害のある就労希望者(男性1人)が、就労移行支援事業所や障害者就業・生活支援センターなどと連携した結果、定着に繋がりました。この取り組みは2024年2月の研修会で事例発表を依頼され、大変有意義な発表ができました。

一方、虐待防止研修などを繰り返し実施したにも関わらず、虐待事案が発生しました。事態を重く受け止め職員会議や虐待防止委員会を開き、問題となった事案の背景を検証したほか、再発防止に向けた取り組みを検討し、改めて組織体制の見直しと職員の意識改善、職場がストレスを溜め込まないような環境づくりに向け取り組んでいます。

(2) グループホーム 杉の湯荘

ゲストの高齢化・重度化に伴う二次障害や認知症・疾病への対応が求められるなか、依然として利用者のADLの低下や医療依存度が高く、複数の診療科を受診している傾向が続いています。

利用者の日中活動系サービスや就労(作業所)の利用継続・定着支援に努めるべく、各関係機関との情報の共有化や多方面からの支援に努めました。

また、補装具費支給制度で個別に補聴器や車椅子を購入し(自己負担含む)、効果的な介護サービスが提供できるように努めました。

生活環境の整備としては、事業所開設から10年以上が経過していることからエアコン6台を新規購入しました。

(3) 相談サポートセンター 北郷の里

地域で障害を抱える人たちの相談の場として、支援対象が、小学生から高齢者までと幅が広がっています。

地域生活支援拠点等整備に関する相談支援体制の整備として、日南市地域自立支援協議会(そうだん部会)において、地域生活支援拠点等整備に関する協議を進めてきました。2026年度には、日南市にも基幹相談支援センターが設置される計画です。そのため、基幹相談支援センターと当事業所を含む指定特定相談支援事業所間でのインターフェース(境界面)について協議を継続しています。

また、利用者の医療的ケア・行動障害(暴力や犯罪など)・高齢化に伴う専門職としての知識や技量の向上に対しては、そうだん部会や各種研修に参加し、業務に活かせる実践的なスキル・知識の習得に努めました。